

## 「アナグリフによる地形の観察(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

平面に印刷された図や写真を、立体的に見る方法はいくつかある。その一つは、1つの画面をほんのわずかに角度を変えて撮影し、その2枚の画像を並べて見る「ステレオグラム」(立体視)という方法だ。



交差法

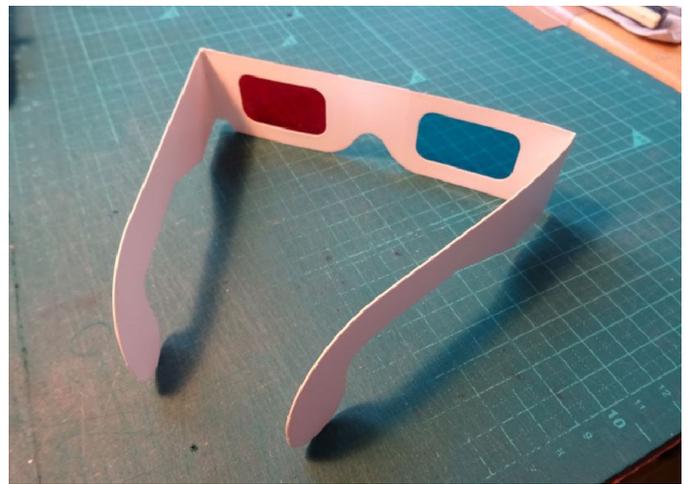


平行法

上がその例で、甲府盆地の「塩山」を中央本線車窓から連続撮影したものを、2枚並べたステレオグラムである。ステレオグラムの利点は、比較的簡単に立体視画像を作れることだ。航空写真や地形写真もこの方法で作図可能である。風景や地形だけでなく、昆虫や静物なども簡単にステレオグラム化できる。

しかし、人によって立体視の方法が異なるので、「交差法」と「平行法」の2種類が必要になる。2種類の画像を用意しても、どうしても立体的に見えない人もいる。特に小学生では立体視に成功する者は半数もない。教材としては不完全と言える。

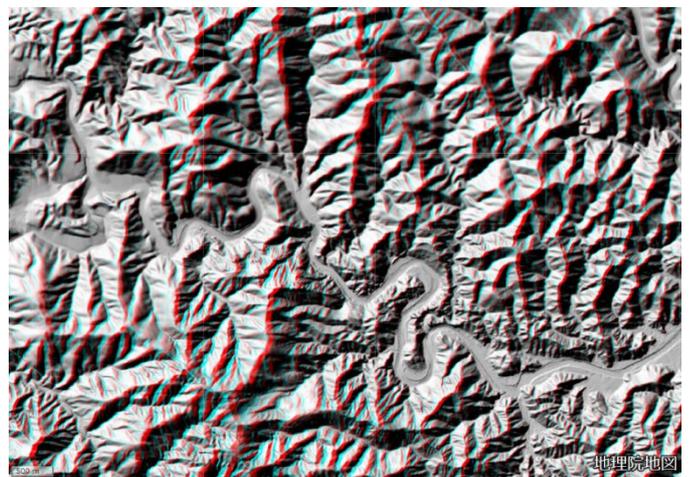
そこで思いついたのが、「アナグリフ」である。アナグリフは立体視の方法の一つで、赤と青の専用のメガネを使う。子どもの頃、何かの怪しげな雑誌の付録にそのメガネがついていて、雑誌に載っている写真が立体的に見えて、キヤーキヤー言ったのを覚えている。



これが「アナグリフ・メガネ」である。左目側に赤いセロファン、右目側に青いセロファンは貼ってある。自作でも簡単にできるが、写真のものは100枚で1500円程度だったので、5年生全員分を購入した。(アマゾンでも入手可能)



図は、大日本の教科書に載っている、和歌山県古座川の上流域の地形図だ。教科書に載っている蛇行は、図の中央付近の「くの字」型の蛇行である。



同じ地図を「アナグリフ用」に作図するところなる。(2ページ目に拡大画像) 微妙に赤・青に色がついている。紙印刷でもPC画面上でも立体的に見えるので、是非メガネを自作して試していただきたい。

